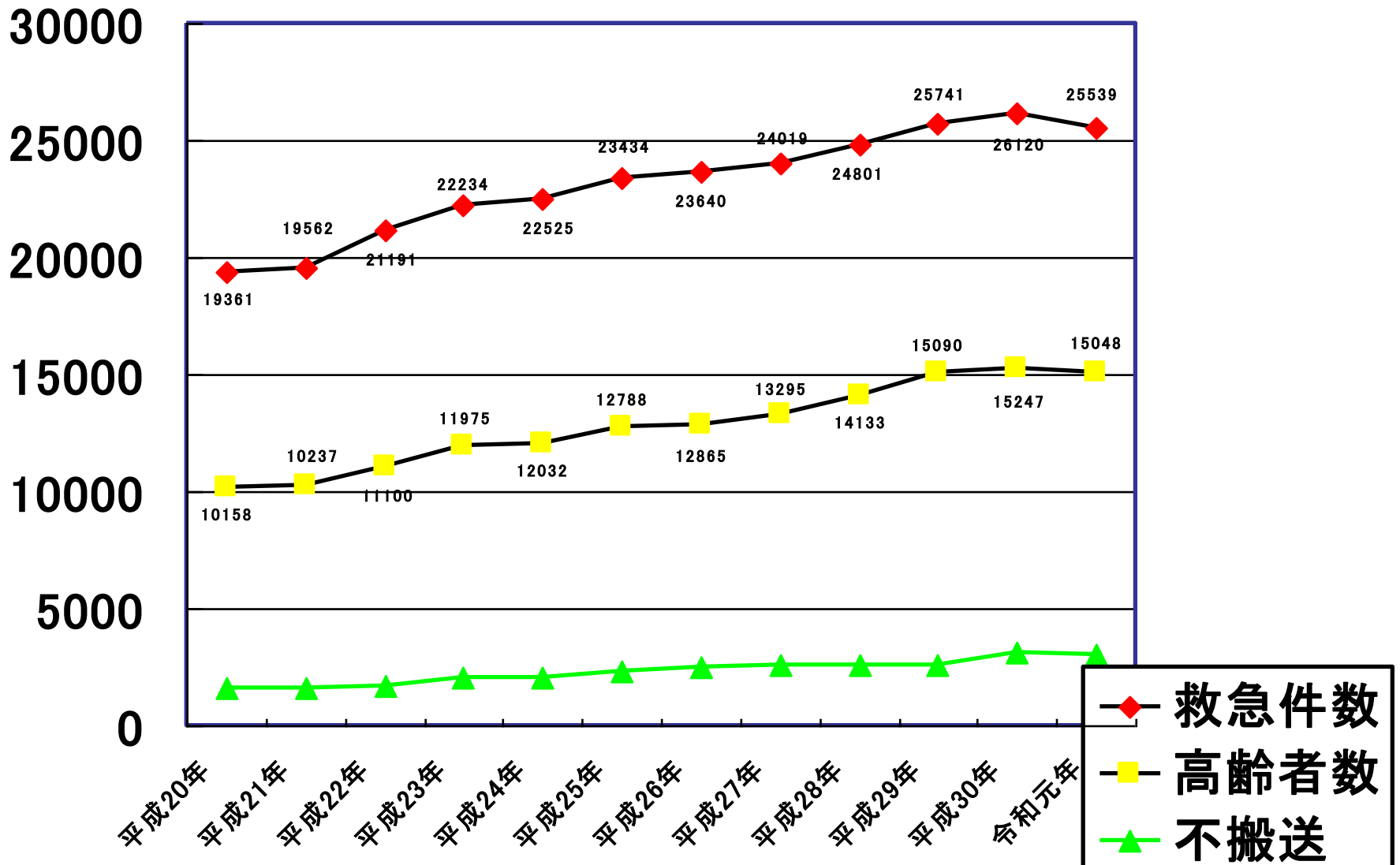


口頭指導

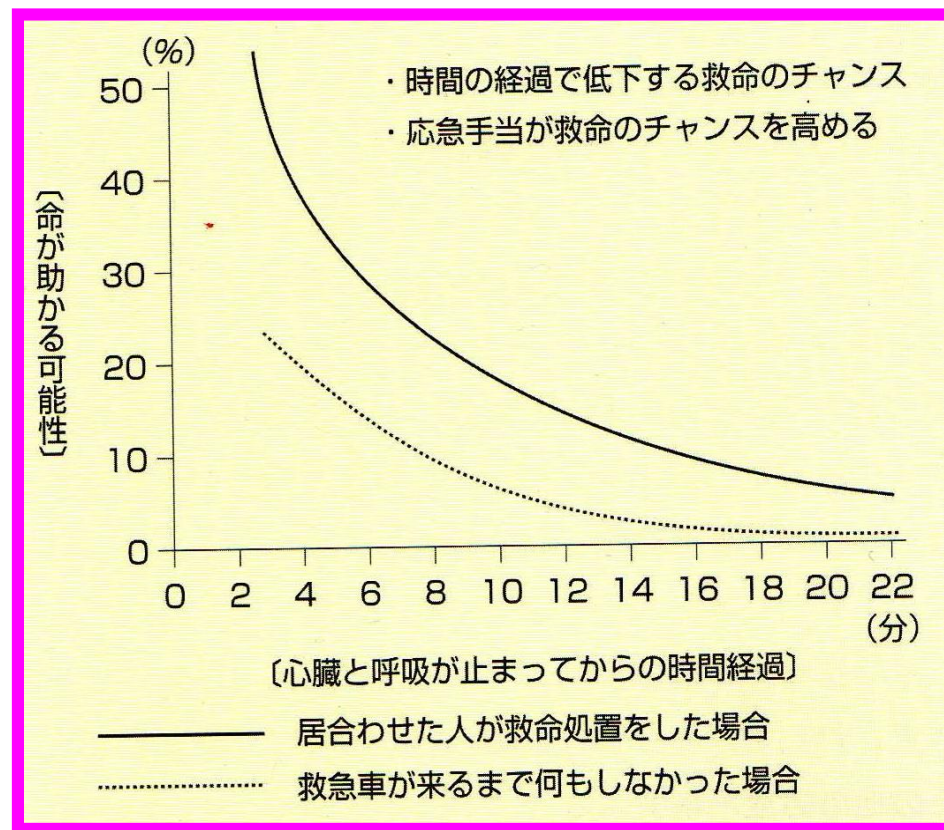
指令課は119番受報を行っていますが、その中でも救急事案における救命率の向上のため、その通報者に対し、救急車到着まで必要な応急手当のアドバイスを口頭指導と言います。

過去10年間の救急件数と高齢者救急傷病者数



心肺停止と119番通報

- 突然、心臓や呼吸が止まってしまった場合、1分1秒でも速い応急手当の開始が重要です。
- 点線は、救急車が来るまで何もしなかった場合、実線は居合わせた人が救命処置を実施した場合。

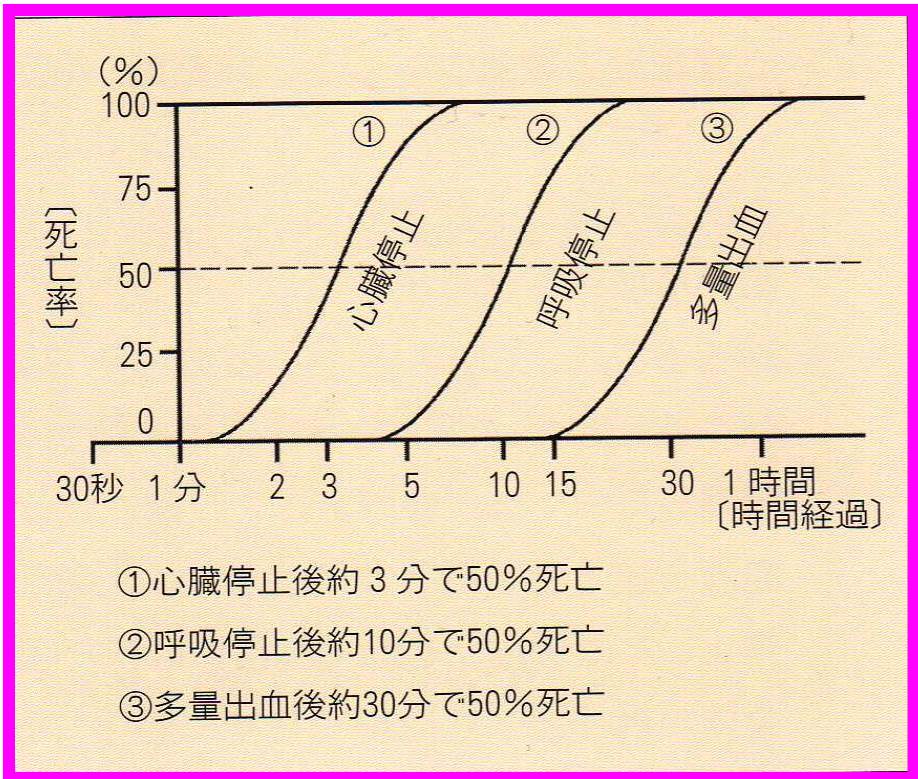


心肺停止と時間の関係

- カーラーの救命曲線

心臓停止、呼吸停止、多量出血のまま放置されると、何分後に死亡するかを示した図。

心臓停止の場合は、呼吸停止、多量出血に比べて、死亡率がより短時間で増加し、救命が困難になります。



救急講習を受講したことがありますか？

【応急手当】

- 1 心肺蘇生法
- 2 気道異物除去法(窒息解除)
- 3 止血法
- 4 熱傷手当
- 5 指趾切断手当

でも実際に応急手当を必要とする場面に遭遇した時、不安で実施できない。

指令課員が119番を受報し、通報内容から必要な応急手当を判断し、応急手当についてのアドバイスを実施します。

まずは

119番に電話する

救急車が
向かう住所(場所)を
正確に、しっかり伝えてください。

比 指令員の質問に答えて

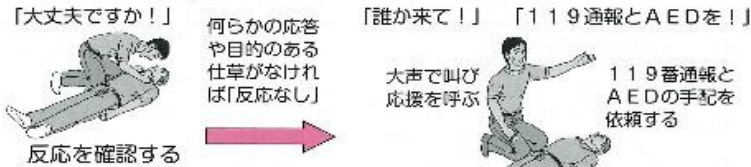
比 指示に従い応急手当を

行ってください

応急手当要領①

I. 成人、小児、乳児の心肺蘇生法

①周囲の安全確認後、反応を確認



※救助者が1人だけのときは、自分で119番通報を行ない、AED(近くにあれば)を取りに行く。(119番の通信指令員が応急手当を指導してくれます。)その後、心肺蘇生を開始する。

②反応がなければ…呼吸の確認(心停止の確認)

呼吸はあるか？



普段どおりの呼吸があるかどうか観察

呼吸は胸と腹部の動きを見て「普段どおりの呼吸かどうか」を10秒以内で確認する。

「普段どおりの呼吸」がない場合、特に死戦期呼吸(いわゆる喘ぎ呼吸)を認める場合は心停止とみなす。

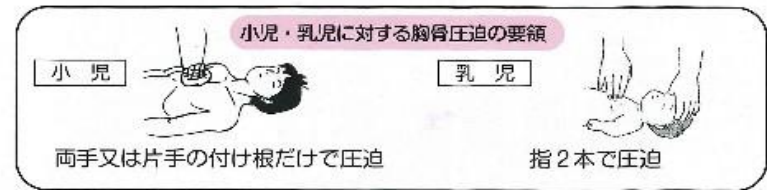
③胸骨圧迫の実施

「普段どおりの呼吸」がない場合は心停止とみなし、胸骨圧迫から開始し胸骨圧迫30回と人工呼吸2回の組み合わせを速やかに開始する。

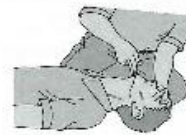
胸骨の圧迫位置	手の置き方	圧迫の仕方
胸の真ん中(左右の真ん中で、かつ、上下の真ん中)	一方の手のひらのつけねをあて、その手の上にもう一方の手を重ねる。	肘をまっすぐ伸ばし、垂直に体重をかける。体重は手のひらの付け根だけにかけ圧迫する。圧迫解除時は、胸が元の位置に戻るよう十分に圧迫を解除する。

・交代可能な場合には、たとえ実施者が疲れを感じていない場合でも、1~2分間を目安に交代することが望ましいが、交代による中断時間をできるだけ短くする。

対象	圧迫の部位	圧迫の方法	圧迫の程度	圧迫の速さ	回数
成人	胸の真ん中	両手で	約5cm(6cm以上圧迫しない)	100~120回/分	胸骨圧迫: 30回 人工呼吸: 2回 の繰り返し
小児(1~15歳程度)		両手又は体格に応じて片手で行う	胸の厚さの約1/3沈み込む程度に圧迫		
乳児(1歳未満)		指2本で			



④気道の確保・口対口人工呼吸…胸骨圧迫30回のあとに



- 外傷の有無に関わらず、気道確保は頭部後屈あご先挙上法で行う。
- 片手をひたいにあてる。
- 他方の手の人差し指と中指の2本をあご先の骨のある硬い部分に当てて持ち上げる。

⑤人工呼吸の実施



- 気道の確保をしたまま鼻をつまみ、ひたいに当てていた手の親指と人差し指で鼻をつまむ。
- 大きく口を開けて相手の口をおおい、約1秒かけて、胸の上がりが見える程度の量を2回吹き込む。(口対口、口対口鼻人工呼吸を行う際には、できれば感染防護具を使用することが望ましい)

⑥2回の人工呼吸が終わったら…再び胸骨圧迫

2回の吹き込みを試みたら(うまくできなかった場合でも)、直ちに胸骨圧迫を再開する。

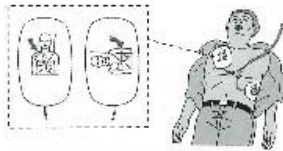
⑦心肺蘇生はいつまで続行するか

救急隊などに引き継ぐまで、または傷病者に呼吸や目的のある仕草が認められるまで続ける。

応急手当要領②

Ⅱ. AEDの使いかた (電気ショック)

- ① AEDを持ってくる
- ② 反応・普段どおりの呼吸がなければ、AEDの電源を入れる。
ボタンを押すか、フタを開ける。
- ③ 電極パッドを貼る
袋を開封して電極パッドのシールをはがし、図のとおり、皮膚に直接しっかりと貼り付ける。
(その後、ソケットを差込む機器もある。)



注意事項

- ★未就学児(およそ6歳未満まで)に対しては、小児用パッドや小児用モードを使用します。未就学児及び乳児に対して、小児用パッドがないなどやむを得ない場合、成人用パッドを使用します。
- ★濡れている場合は、タオル等で拭き取る。
- ★貼り薬が貼られている場合は、はがしてから薬剤を拭き取る。
- ★心臓ペースメーカーや除細動器が胸の皮膚の下に埋め込まれている場合は、膨らみから離してパッドを貼り付ける。
- ★小学生や中学生以上には成人用パッドを使用してください。小児用では不十分。

④ 心電図を解析する

電極パッドを貼り付けると傷病者から離れるように又は解析ボタンを押すようにメッセージが流れ、解析が始まる。(誤作動の原因となるので、決して傷病者に触れない。)



解析と電気ショック時は傷病者に触れない

⑤ 除細動 (電気ショック) を行う

除細動の必要があれば充電が開始される。充電完了メッセージの後に点滅しているボタンを押すが、誰も傷病者に触れていないことを確認してから、ボタンを押す。



⑥ AEDのメッセージに従って、心肺蘇生法を続ける

胸骨圧迫30回と人工呼吸2回のサイクルを約2分間ごとに交代しながら、(交代できる人がいる場合)救急隊などに引き継ぐまで、または傷病者に呼吸や目的のある仕草が認められるまで続ける。

Ⅲ. 異物の除去

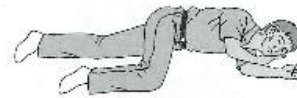
① 反応がある場合の異物除去

成人・小児		乳児・新生児
腹部突き上げ法	背部叩打法	背部叩打法
<ul style="list-style-type: none"> ・強い咳ができる場合は、傷病者本人の努力に任せる。 ・異物が取れるか反応がなくなるまで、2つの方法を数度ずつ繰り返して続ける。 ・妊娠していると思われる女性や高度な肥満者に腹部突き上げは行わず、背部叩打のみを行う。 ・腹部突き上げ法を実施した場合は、腹部の内臓をいためる可能性から、医師の診察を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気道異物による窒息と判断した場合は、ただちに119番通報(緊急通報)を誰かに依頼した後に、頭部を下げて、背部叩打や胸部突き上げを実施する。 ・腹部突き上げは行わない。 ・異物が取れるか反応がなくなるまで、2つの方法を数度ずつ繰り返して続ける。 	

② 反応がない場合の異物除去

- 反応がなくなった場合は、まだ通報していなければ119番通報し、心停止に対して行う心肺蘇生法の手順を開始する。
- 心肺蘇生を行っている途中で異物が見えた場合は、それを取り除くが、見えない場合には、やみくもに口の中に指をいれて探らない。また、異物を探するために胸骨圧迫を長く中断しない。

Ⅳ. ファーストエイド(傷病者の体位と移動)



救急隊が到着するまでは、傷病者が望む姿勢にして安静を保ちます。車が通る路上など危険な場所にいる場合は、安全な場所に移動させます。反応はないが普段どおりの呼吸がある場合は、横向きに寝た姿勢(回復体位)にして、気道を確保します。

Ⅴ. ファーストエイド(大出血時の止血法)



きれいなハンカチなどを重ねて傷口に当て、手で圧迫する。直接血液に触れないようにするために、ビニール袋などを利用し、救助者の手を保護する。